

- 令和七年度社会福祉法人大五京学校評価

令和七年度一年を通して、各施設が異年齢での保育・教育に積極的に取り組むことで、年齢ごとの保育・教育では獲得できない領域でのお子様の成長をうながすことができたとの客観的成果報告が多くあった。これら賞賛すべき成果は法人本体と各施設、何より職員一人ひとりが同じ教育保育目標を深く理解して、共感し合ったことにより成し得ることができたものであると考える。

そのため、現場レベルではコミュニケーションが質量ともに高まり、それがベテラン職員と若手職員、法人本部と各施設など垂直的、水平的に垣根を越えて展開されることになったことは、必然性を伴った良い方向での副次的効果であったと言える。

更には、法人が内設する臨床スキル研究所の公認心理師・臨床心理士との連携により、エビデンスに基づいた個別のお子様、集団としての複数のお子様に適応した現場において実現可能な発達支援や心理支援が有機的に行われていたことは、この間の研究投資に対する成果の一つであったと評価できる。

理事会・評議会としては、全国的な人手不足、物価高、少子化といった複合的問題に対して耐えうる収益状況の強化を各施設、職員の方々と協力し合いながら構築していきたいと考えている。

令和8年3月18日 理事会・評議会